

V. 特記事項

1. 次世代教育センターの取り組み

令和3(2021)年4月に、数理・データサイエンス等これからの社会のニーズに応えられる幅広い教養を身につけた人材の育成のために、畿央大学独自の「次世代型教養プログラム」を開発および運用することを目的とした「次世代教育センター」を設置した。「次世代型教養プログラム」とは、通信技術や ICT 技術等の急速な進展による DX とデータサイエンス・AI をキーワードとした大きな社会の変革期において、本学の学生がこれからの社会から必要とされるリテラシーや教養を自主的に学ぶ際に、単純なものごとの理解や必要なスキルの習得だけではなく、それらの本質や普遍的価値などを同時に理解することで、より高い次元での教養を獲得することを目的とした独自の教育プログラムである。

令和3(2021)年度は、ロボット(MICRO:ROVER KIT)を使用した「これからも『ひと』と『ロボット』は共存できるのか」等計3プログラムを実施した。令和4(2022)年度は数理・データサイエンスの領域にとどまらず、さらに幅広く正課の学びだけでは身につけることのできない、プラスアルファの教養をイメージして「コミュニケーション力養成講座」、「エアードームによるプラネタリウム上映」等計7プログラムを実施した。令和5(2023)年度は、「文章読解・作成能力検定講座」、「近未来テクノロジーの生かし方」等計9プログラムを実施する。次の時代の主役となる学生に対し、正課の学びで獲得した専門的な知識や国家資格等を実社会でさらに生かすための3つの力「KIO 力」(Knowledge、Ict、Organization) を獲得できるプログラムを展開する。

2. 畿央大学附属広陵こども園と大学との連携

本学の所在地である広陵町と令和3(2021)年「公私連携幼保連携型認定こども園設置及び運営に関する協定」を締結し、令和5(2023)年4月に畿央大学附属広陵こども園を開園した。「子どものいまをたいせつに」をテーマに原体験・発見・表現をキーワードとした野外活動や異文化体験、探求的なテーマ活動、アトリエ活動、運動遊びを計画している。

本学が持つリソースを生かし、行政と協力しながら地域に開かれた魅力あるこども園をめざし、教育・保育・健康・栄養・建築など様々な分野から、子どもの成長・発達に寄り沿う教育と研究を行なう。その成果は、こども園の通常の教育・保育や本学の公開講座等を通じ、子どもや保護者に還元する。幼大連携事業を積極的に推進する組織として令和4(2022)年11月に幼大連携事業推進委員会を設置している。さらに、つながりがより強い教育学部では、「こども園連携授業専門員会」を設置し、大学の幼児教育分野の授業を担当する教員とこども園の教員とが授業連携についての調整や、共通理解を図っている。

具体的な取り組みとしては、人間環境デザイン学科1回生選択科目「立体表現Ⅱ」で制作したスツールや、人間環境デザイン学科の教員が設計・監修し学生が製作したジャングルジムをこども園の教育・保育で活用している。また、教育学部では幼大連携の正課科目として、令和5(2023)年度1回生選択科目「幼児教育実践論」の授業をこども園で実施する予定である。さらに、令和6(2024)年度には2回生選択科目「幼児教育フィールド学習」の開講を予定している。